

## 創立65周年を迎えて

(株)市浦ハウジング&プランニングは、本年(2017年)5月をもって創立65周年を迎えました。創設者である故市浦健が1952年、市浦建築設計事務所を開設して以来「人間居住の向上」というテーマを受け継ぎ、計画設計、調査研究活動を継続してこられたことは、発注者の方々や、多くのOB・OGの方々、また、御協力いただいた専門組織の皆様方のおかげにほかなりません。この場を借りて心からお礼を申し上げます。

また、「質の高い住まいと住環境こそが社会の基盤であり、真の豊かさはその基盤の上に築かれ」との信念のもとに実績を積み重ねてこられたのは、この道を切り拓いてきた市浦健先生をはじめ、二代社長富安秀雄、三代社長小林明、四代社長佐藤健正、五代目社長内田勝巳の功績によるところは言うまでもありません。この65年の間には、約320名のOBが「市浦学校」を卒業し、各分野で活躍される多くの人材を輩出したことも大きな誇りであります。弊社がこの65年に亘って継続してこられたのは、こうした多くの先輩方のご努力とともに、時代時代に応じた課題に対応していく柔軟な対応姿勢があったことだと感じています。現在も弊社は、PFI事業やサービス付高齢者向け住宅の補助金交付事業、長期優良住宅等の事業推進業務、建築基準法関連の検討、東日本大震災や熊本の災害復興住宅事業など、多くのOB事務所や外部協力事務所の方々と様々な仕事を協同して進めつつ、現在の種々の住宅や居住を巡る課題に対応しています。

わが国は人口減少時代に入り、住宅や居住を取り巻く状況が大きく変容し、計画設計、調査研究活動には今まで以上に幅広い視点や視野が求められています。私たちはこれまでの蓄積した知識や技術を絶やすことなく、時代の変化に対応しつつ常に先導的な取り組みを進め、新しい領域にもチャレンジしていきたいと思ひますし、このため多くの方々とも更なる協力体制を構築していきたいと思ひています。

また、近年は長時間労働の抑制を含めて適正な業務環境の整備が一層重要になっています。こうした面も含めて私たちは健全な業務のあり方と「ハウジングを通して社会に貢献する」ことを再確認しつつ、業界を牽引する役割を果たしていきたいと思ひています。

2017年5月

代表取締役社長 川崎直宏